

3.5 課題の整理

平成 16 年 7 月福井豪雨の実態を把握した結果、以下のような課題があげられた。

(1) 気象予報・洪水予報に関する課題

気象予報の精度向上

現在の数値予報では、局地的な豪雨を、いつ、どこに、どのくらいかを前もって予報する精度を持っていない。数値予報モデルの改善には、飛躍的に計算量が増えてくるなどの課題があるものの、今後とも改善が必要である。

洪水予報の実施

平成 13 年 7 月に水防法と気象業務法の一部改正の改正が施行され、従来の国土交通大臣が気象庁長官と共同で行う洪水予報に加えて、都道府県知事が指定した河川について気象庁長官と共同で洪水予報を実施することができるようになってきている。このため、洪水による被害を防止・軽減するため、气象台との連携を強め、今後、早急に洪水予報を実施する必要がある。

水位・流量観測の充実

洪水予報とも関連するが、日野川合流点から管理区間上流端にいたる区間での水位・流量観測の強化を図り、河川情報を的確に把握する必要がある。

(2) 河道に関する課題

水位低下・流下能力の向上

福井豪雨による越水、および破堤により災害を受けたことから、早急な河道の整備、橋梁の架け替え、ポンプ排水操作の調整、河道内許可工作物の設置への指導等が必要である。

・ 河道の整備

再度災害防止の観点からのハード整備として、河床掘削、堤防補強等により河道の整備を行う必要がある。

・ 橋梁の架け替え

今回の検討区間には、破堤地点 4.6km 下流の 3.0km までに合計 10 の橋が架かっており、そのうち、6 橋は架け替え済みであるが、現時点では幸橋、新 JR 橋の架け替えが行われており、2 橋が今後架け替え予定である。これらの 4 橋完成により、仮設橋設置を含む河積阻害が改善され水位低下が期待できるため早期の架け替えが必要である。

・ ポンプ排水操作の調整

荒川排水機場等からの内水排除に関しては、地域住民や関係機関との十分な協議をもとに、超過洪水時を含めたポンプ排水操作の調整の検討を行なう必要がある。

低水路の線形計画

本検討会では、破堤地点を中心とした上下流区間を対象として、洪水の水位・流況（流向・流速）を検証した結果、河道の湾曲部外側が必ずしも水衝部ではな

いことなど、河道の縦横断形状のみならず、低水路法線を含む平面形状が非常に重要となることが判明した。このため、河道計画においては流況改善を目的として、水衝部の堤防補強等を含む低水路の拡幅と同時に、堤防近くの高水敷の流速を低減させるための低水路法線形の見直し等が必要である。

(3) 堤防に関する課題

破堤箇所の復旧

本調査検討委員会における破堤の要因は、越水洗掘による侵食と浸透による脆弱化が複合的に生じた結果と考えている。今回の破堤のメカニズムの解明結果をもとに、左岸の破堤箇所の堤防の復旧対策・工法・諸元について、安心と安全性を確保する適切な工法による復旧が必要である。

特殊堤を含むその他の堤防の強化

今回漏水などが発生した右岸側の特殊堤について、対策方針・工法の検討を早急に行う必要がある。

その他の堤防の強化対策として、計画高水位に対して安全性を有するよう復旧、補強等の強化が必要である。

(4) 情報提供、情報交換に関する課題

行政機関や消防団等の関係機関における情報交換に関するヒアリング調査、「平成16年7月福井豪雨についての住民調査」の結果、以下の項目の再整理、実施計画の策定が求められる。

関係機関の情報交換

災害時の情報収集、提供や、水防活動、救助活動、避難誘導などに従事する関係機関において、的確に状況を把握し、適切な判断、行動等を行うため、迅速かつ確実に情報を収集、交換する必要がある。

災害時、平常時における住民への情報提供

災害時における住民の的確な状況把握や対応行動を促すとともに、平常においても日頃からの住民の防災意識を高めるために、住民に対して、的確に情報を提供していくことが必要である。

福井県では、風水害対策の強化を図ることを目的に、平成15年2月に福井県地域防災計画を改訂し、水防計画も毎年見直しているところであるが、今回の平成16年7月福井豪雨の情報提供、情報交換に関する課題を踏まえ、県および市町村において計画の再度の見直しが必要である。